

## 雲仙温泉歴史探訪コース：島原一揆

雲仙の地獄温泉を見下ろす丘に、簡素な十字架が立っている。それがキリシタン殉教碑、あるいはキリスト教殉教者のモニュメントだ。明治時代（1868年 - 1912年）に立てられた最初の碑は、17世紀の前半に雲仙で拷問され殺された、およそ33名のキリスト教徒を後世に伝えている。

キリスト教は、ポルトガル人宣教師や商人を通じて、1500年代後半に初めて日本にやってきた。キリスト教は、宣教師が初めて到着したここ九州で、特に広まった。しかし、1630年代までに、キリスト教は禁止され、外国人宣教師は追放され、多くの日本人キリスト教徒が処刑された。ここ雲仙で行われた、特に身の毛もよだつような拷問は、多くの残忍な弾圧の一例にすぎない。信仰を放棄することを拒否したクリスチャンは、温泉からの水を体に注ぎ、火傷や病変を引き起こしました。時には、温泉に投げ込まれ、処刑されることもあった。

最終的に、1637年12月に、重い課税と信仰に対する激しい弾圧に反発したキリスト教徒の反抗者たちが、島原の乱として知られる暴動で幕府に対して反乱を起こした。1638年4月までに、反乱軍は失われ、何万人ものキリスト教徒が処刑された。わずかに残ったキリスト教徒が、250年近く隠れて信仰を实践した。